

2019年3月20日
株式会社三菱UFJ銀行

「ESG 経営支援ローン」の商品リリースについて ～日本郵船株式会社が第1号案件成約～

株式会社三菱UFJ銀行（頭取 ^{みけ} ^{かねつぐ} 三毛 兼承）は、お客さまの ESG（環境・社会・ガバナンス）の取り組みを支援・サポートする ESG 評価型融資商品である「ESG 経営支援ローン（以下、本商品）」の取り扱いを今般開始いたしました。

本商品の ESG 評価は、株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ（以下、MUFG）の一員である三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社（以下、MURC）をサービス提供者、グリーンファイナンスの認証実績のある株式会社日本格付研究所（以下、JCR）をサポート企業としております。MURC が ESG に関する独自のチェック項目に基づき、お客さまの ESG に対する取り組みを評価、スコアリングを付与するとともに、JCR との連携で客観的な確認を実施し、課題等もお客さまにフィードバックします。本商品は、評価結果が一定以上の企業を対象とした評価型の融資商品となります。

また本日、本商品の第1号案件として、商品設計の段階からアドバイスを頂いた日本郵船株式会社（代表取締役社長 ^{ないとう} ^{ただあき} 内藤 忠顕）と、環境への貢献が優れた資金使途に対するシンジケートローン契約を締結いたしました。

日本郵船株式会社は、MUFG ESG 評価においてすべての項目で非常に高いレベルで評価を受け、「業界をリードする ESG 経営」との評価である最高ランクの S 評価を取得しました。

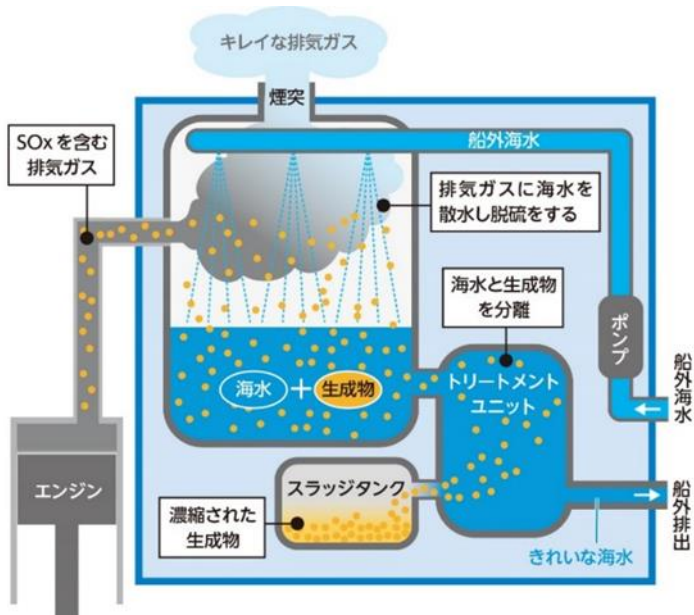
- ✓ E・S・G 全ての領域において、機会とリスクを整理し、幅広く先進的な取り組みを実施。
- ✓ 環境（E）においては、国連気候変動枠組条約（UNFCCC）の 2℃目標を踏まえ、中長期の GHG 排出削減目標の設定と、事業における具体的な取り組みを推進。
- ✓ 社会（S）においては、人材の多様性を踏まえた働きやすい職場づくりとともに、企業成長の鍵となる人材の育成にグループをあげて取り組み。
- ✓ ガバナンス（G）においては、急速に変化する経営環境に伴う様々な経営リスク・機会を組織として認識し、攻めと守りの両面から施策を展開。

併せて、今回のシンジケートローンは、JCR よりグリーンローン原則が定める資金使途（スクラバー※の設置費用）・プロジェクトの評価・資金調達の管理・レポートの第三者認証も取得し、最上位の「Green1」の評価を受けています。

（※）エンジンから排出される SOx（硫黄酸化物）含む排気ガスに海水を噴霧し、硫黄分を除去する装置。スクラバー搭載により1隻あたりの Sox 排出量を 86%削減。

MUFG は、引き続き、お客さまの ESG の取り組みを支援し、事業を通じた環境・社会課題の解決に貢献してまいります。

<スクラバー装置の仕組み>



以上